

# 追跡レポート

## 災害公営住宅 完成は、 いつ頃？

熊本地震から2年3カ月が過ぎた。被災された村民からも早期整備が求められている「災害公営住宅」。現在計画されている3団地の進捗状況をお伝えしたい。

### ① 下西原団地

(河陽地区・加勢仮設団地の北側)

計画戸数/14棟28戸

1LDK6戸、2DK6戸、  
2LDK12戸、3LDK4戸

整備手法/熊本県に委託

建築工法/木造平屋、長屋建て

(1棟2戸)

敷地面積/約8000㎡

整備費/(委託料) 5億6272万円、(土地購入費) 2083万円

完成時期/今年12月に竣工

入居開始予定/平成31年2月

※村内で一番早く建設計画が進んでいた団地だが、それでも完成は今年年末に。7月から工事が着工。



下西原団地起工式 (7月5日)

### ② 立野・馬立団地

(立野地区・国道57号南側)

計画戸数/20棟40戸

1LDK6戸、2DK12戸、  
2LDK20戸、3LDK2戸

整備手法/民間買取

契約相手方/新規建設(株)

建築工法/木造平屋、長屋建て

(1棟2戸)

敷地面積/約13700㎡

整備費/(建物) 10億3130万円、(土地購入費) 3581万円

完成時期/平成31年3月末

入居開始予定/平成31年4月

※昨年10月の長期避難解除後から、計画が動き出した。この団地は、民間企業が作り上げたものを村が買い取る形式を採用。今回の6月議会で、その購入契約を承認した。

### ③ 長陽西部地区

(黒川地区・旧長陽西部小学校庭内)

災害公営住宅の事前調査では、100世帯近くが入居を希望。上記の2団地では戸数が足らず、村は、下野山田団地(木造)の継続使用を模索していた。しかし、地権者との交渉が難航し、結果的に土地の購入は叶わなかった。

その代替案として、吉良村長は、「旧長陽西部小学校に公営住宅を建設する」と表明した。戸数や整備手法、建築工法等は、現時点では未定だ。今後、最終的な入居希望数や詳細の詰めが急がれる。

6月議会・一般質問より

#### 橋本 功議員

「高齢者の自宅再建が進んでいない。融資を受けられない高齢者の住まい再建について、村の対応はどう考えているのか」

#### 村長

「自宅再建が困難な方には、災害公営住宅を整備している。長陽西部地区では、旧長陽西部小学校に整備したい。」

整備戸数は、希望調査の結果を踏まえ、決定したい」

※お隣の西原村では、6月に災害公営住宅(河原地区)が県内最速で完成し、7月から入居が始まった。本村では早くても、完成は12月末と半年も開きがある。

競う必要はないが、同じ被災地でありながら、行政によって復興スピードに違いが出てきているのは事実だ。村長も事あるごとに、村民の生活再建最優先を明言している。果たして村民の希望に添った復興になっているか。スピード感も1つの基準に、議会からもしっかりとチェックと提言を行っていききたい。

生活再建の拠点となる恒久的な住まい確保の為に、災害公営住宅の早期完成が待ち望まれる。